

# 燕の町家における室空間と住まい方に関する研究 －吹抜けの有無と接客空間について－

A study on the space syntax of traditional houses, Machiya in Tsubame, Niigata

渡辺 郁\*3      西村 伸也\*1      半澤 祐介\*2      樋口 雅希\*3      渡辺 恵\*3  
Kaoru Watanabe\*3   Shin-ya Nishimura\*1   Yusuke Hanzawa\*2   Masaki Higuchi\*3   Megumi Watanabe\*3

新潟県旧燕市の町家を対象に、その室空間構成と、燕の町家における住まい方を調査・分析する事でその地域性を明らかにする。燕の町家では、ミセやドマの使い方によって吹抜けの有無や室の配列の違いなど、室空間構成が変化していた。燕においては、接客空間における採光の確保・床の間の配置といった格の維持や、階段からの動線といった住まい方は変わらないが、ミセやドマの使い方に対応して室の配置や機能が異なるということを明らかにした。

**Keywords**      Tsubame      traditional house      void      service      position of stairs  
燕      町家      吹抜け      接客      階段位置

## 1. 研究の背景と目的

日本の伝統的な住居である町家は、間口が狭く奥行きが長いという共通部分を持ちながらも、風土や文化などの影響を受けその形態を変化させ、地域特有の住まい方の仕組みを持つ。しかしながら、近年の大規模開発などにより町家は伝統的なその姿を失いつつある。中心市街地の再生やまちづくりに対して、現存する町家を研究し、後世に残すべき日本の伝統的な住居の仕組みを探ることで、地域性を明らかにすることが必要である。本研究は新潟県旧燕市（以下燕）の町家において、吹抜けの有無に着目し、室空間構成や住まい方について明らかにすることを目的としている。

## 2. 調査概要

調査は2007年5月～11月にかけて、燕の秋葉町1丁目～中央通1の5町内を対象範囲として行った。実測調査により町家12戸の住戸平面・断面の採取及びヒアリングを行った。また燕の歴史に詳しい住民へのヒアリングも行っている（fig.1,2）。

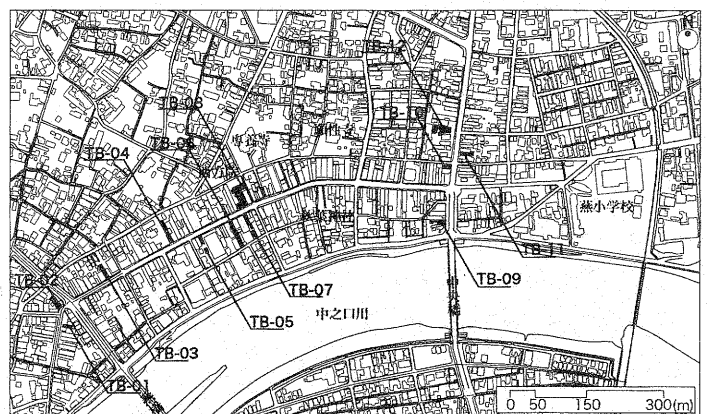


fig.1 調査対象地域

住戸番号	街区	建築年代	職業	間口(間)	屋根形状	吹抜けの有無と位置
TB-01	秋葉町1	1869年	道具屋→珠算教室	3.38	妻入り	2室目吹抜け型
TB-02	秋葉町1	1920年頃	雜貨屋	3.93	妻入り	2室目吹抜け型
TB-03	秋葉町1	1937年	洋服店	3.00	妻入り	1室目吹抜け型
TB-04	仲町	1941年以前	たばこ屋	3.08	妻入り	2室目吹抜け型
TB-05	仲町	1937年以前	材木屋→建築関係	3.00	妻入り	1室目吹抜け型
TB-06	仲町	1926年以前	鋳製作	3.01	妻入り	吹抜け消失型
TB-07	仲町	1941年以前	仏壇店	3.41	妻入り	2室目吹抜け型
TB-08	仲町	1918年	鋳器小売	5.39	丁字	吹抜け消失型
TB-09	中央通1	1908年前後	鋳器鋳器制作	3.52	妻入り	2室目吹抜け型
TB-10	中央通1	1970年頃	—	4.43	妻入り	2室目吹抜け型
TB-11	中央通1	1960年頃	米小売	3.14	妻入り	1室目吹抜け型
TB-12	中央通1	1907年	鋳器鋳器制作	5.04	丁字	2室目吹抜け型

fig.2 調査住戸概要

\*1 新潟大学工学部 教授・工博 Prof., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

\*2 日建設計 工修 NIKKEN Act Design. M. Eng.

\*3 新潟大学大学院 博士前期課程 Graduate school of Eng., Niigata University.

### 3. 燕の町家における室空間構成

燕の町家は主屋が切妻の妻入り屋根となっているものが多い。基本的な室構成は3段構成と4段構成があり、4段構成の町家では1階主屋オモテ側からミセ-チャノマ-イマ-ネマと続くものと、ミセ-チャノマ-ネマ-イマと続くものの2種類が見られる。3段構成の町家はミセ-チャノマ-イマと続いている。どちらも中庭を介してその奥に付属屋をもつ。土間が主屋から付属屋まで通っており、付属屋は工場や蔵として使用されている。主屋の中庭に面した部分にはイタバが設けられ、配膳や食事のための空間として利用されていた例もあった。間口幅の広い住戸では2列構成となり、各室機能が特化した構成となっている。階段は主に家のシモ側に配される。主屋2階はオモテ側をマエニカイ、ウラ側をウシロニカイと呼ぶ。間口の広い家に関してはミセおよびマエニカイ部分を切妻の平入りとする造りが見られる (fig.3,4)。

### 4. 吹抜けの有無と住まい方

燕の町家ではチャノマ上部を吹き抜けにしている住戸としていない住戸が見られた。

#### 4-1. チャノマと接客空間

燕の多くの町家では1階2室目にチャノマが設けられる。チャノマは日常の接客の場として使用され、ドマ側の側頂窓や天窓から採光を確保している。チャノマのカミ側には仏壇・床の間および神棚が設けられる。また、2階の接客空間としてはマエニカイがある。冠婚葬祭や改まった接客などに用いられ、床の間や違い棚などのしつらえが施されている (fig.5)。

#### 4-2. 室空間構成の分類

##### 1) 2室目吹抜け型

2室目上部に室が設けられない町家で、燕における基本的な構成である。オモテからミセ-チャノマ-イマと続き、チャノマ上部が吹抜け。2階はマエニカイとウシロニカイがある (fig.6-a)。

##### 2) 1室目吹抜け型

ミセの利用の仕方によって2階1室目に室が設けられず吹抜けとなる場合の町家である。具体的には、ミセ部分での長い材木の保管や、細かい作業をする際に必要な採光の確保のために、ミセ上部を吹抜けとしていた例がある (fig.6-b)。

##### 3) 吹抜け消失型

ウラの付属屋が作業場となる例などでは、材料の運搬のためにドマ幅を確保する必要がある。階段が室側に配されたため、基本型となる町家では見られる吹抜けがなくなった (fig.6-c)。

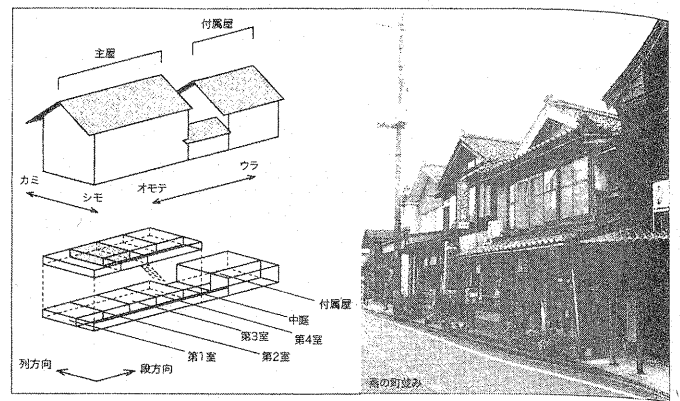


fig.3 町家のモデルと各部名称定義

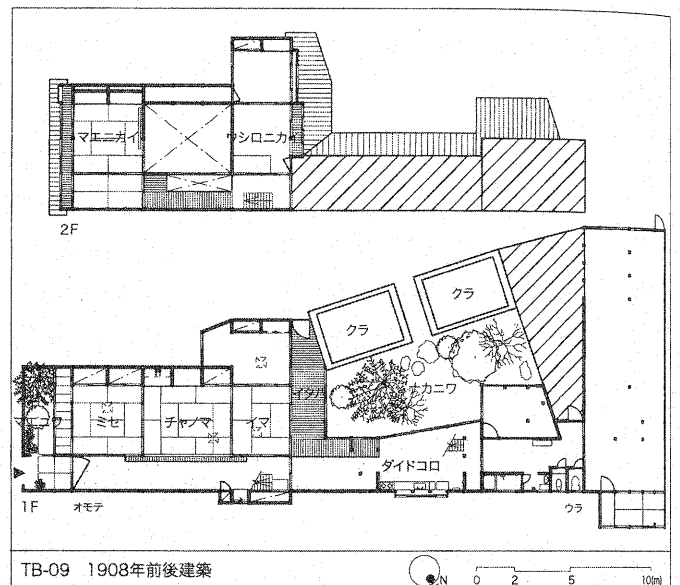


fig.4 基本的な燕の町家



fig.5 チャノマとマエニカイ

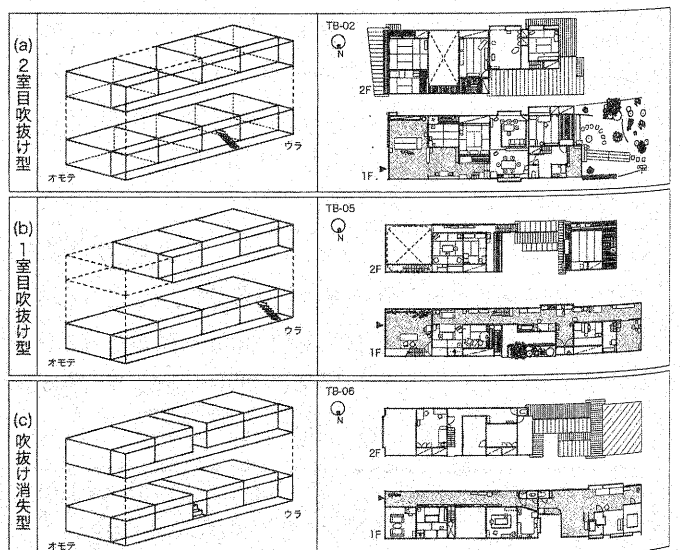


fig. 6 各型の分類

## 5. 各型における2階の室機能

2室目吹抜け型ではマエニカイは床の間が設けられ、改まった接客や遠方からの客人の宿泊などが行われる。ウシロニカイは若い夫婦の寝室や子供部屋として使用され、マエニカイに比べ格の低い部屋と言える。冠婚葬祭など非日常の儀式は、1階のチャノマとイマを一体として使う (fig.7-a)。1室目吹抜け型は2階1室目に室が設けられないため、床の間は2階2室目に移動し、そこが客間として利用される。2階3室目は若い夫婦の寝室や子供の部屋として使用される (fig.7-b)。吹抜け消失型では階段を室側に設けるため、冠婚葬祭の場として1階2室目・3室目を続き間として使用することができない。このため吹抜けは消失し、床の間が2階2室目にも配され冠婚葬祭などの儀礼が2階で行われる。階段をはさんでオモテ側を格の高い部屋、ウラ側を格の低い部屋とし、階段で公的な場と私的な場を分けている (fig.7-c)。

## 6. 各型における階段と吹抜けの位置

2室目吹抜け型では、階段は2室目のチャノマを避けて3室目付近に配置され、オモテ方向に上がる。客人が2階のマエニカイに行く場合には、階段を上がり釣り廊下でチャノマの脇を通る。住人が普段使用する場合は2階3室目に配されるため、客人の動線と2階で交わることはない (fig.8-a)。1室目吹抜け型は階段が3室目付近に位置し、2室目吹き抜け型よりも後ろ側に設けられる。客間へは階段から寝室を通る動線となっている (fig.8-b)。また、吹抜け消失型においては、階段が室側に配され吹抜けは設けられない。この場合は、客人と住人で動線は異なり、客人は2階のマエニカイへは客間の補助的な空間を挟んで行くこととなる (fig.8-c)。

各型において、階段位置は異なるが、2階の階段から最も近い部屋は若い夫婦の寝室や子供部屋などの私的な空間として使用される。燕においては、階段位置は格の高い部屋への動線よりも私的な空間への動線が優先されていると言える。また、客人の動線に注目してみると、2室目吹抜け型の場合は階段と客間の間に吹抜けをはさみ (fig.9-a)、1室目吹抜け型や吹抜け消失型の場合には室をはさんでいることが分かる (fig.9-b,c)。この構成は吹抜けの有無や階段位置によらず同じである。1階においては、吹抜け型でも吹抜け消失型でも1階の接客空間であるチャノマを避けて階段が配置されている。吹抜け型の場合には吹抜けを介すことでマエニカイとウシロニカイの空間を分ける事ができる。一方、吹抜け消失型において客人はオモテ側の階

		第1室	第2室	第3室	第4室
(a) 2室目吹抜け型	1階	呼び名 ミセ	チャノマ	イマ	ネマ
	1階	用途 商売	日常接客	食事・団楽	就寝
	2階	呼び名 マエニカイ		ウシロニカイ	ウシロニカイ
	2階	用途 接客	吹抜け	就寝	就寝
(b) 1室目吹抜け型	1階	呼び名 ミセ	チャノマ	ネマ	イマ
	1階	用途 商売	日常接客	就寝	食事・団楽
	2階	呼び名 吹抜け	マエニカイ	ネマ	ネマ
	2階	用途 接客	接客	就寝	就寝
(c) 吹抜け消失型	1階	呼び名 ミセ	チャノマ	ネマ	イマ
	1階	用途 商売	日常接客	就寝	食事・団楽
	2階	呼び名 マエニカイ	マエニカイ	ネマ	ネマ
	2階	用途 接客	接客	就寝	就寝

fig.7 各型の室配列と室機能

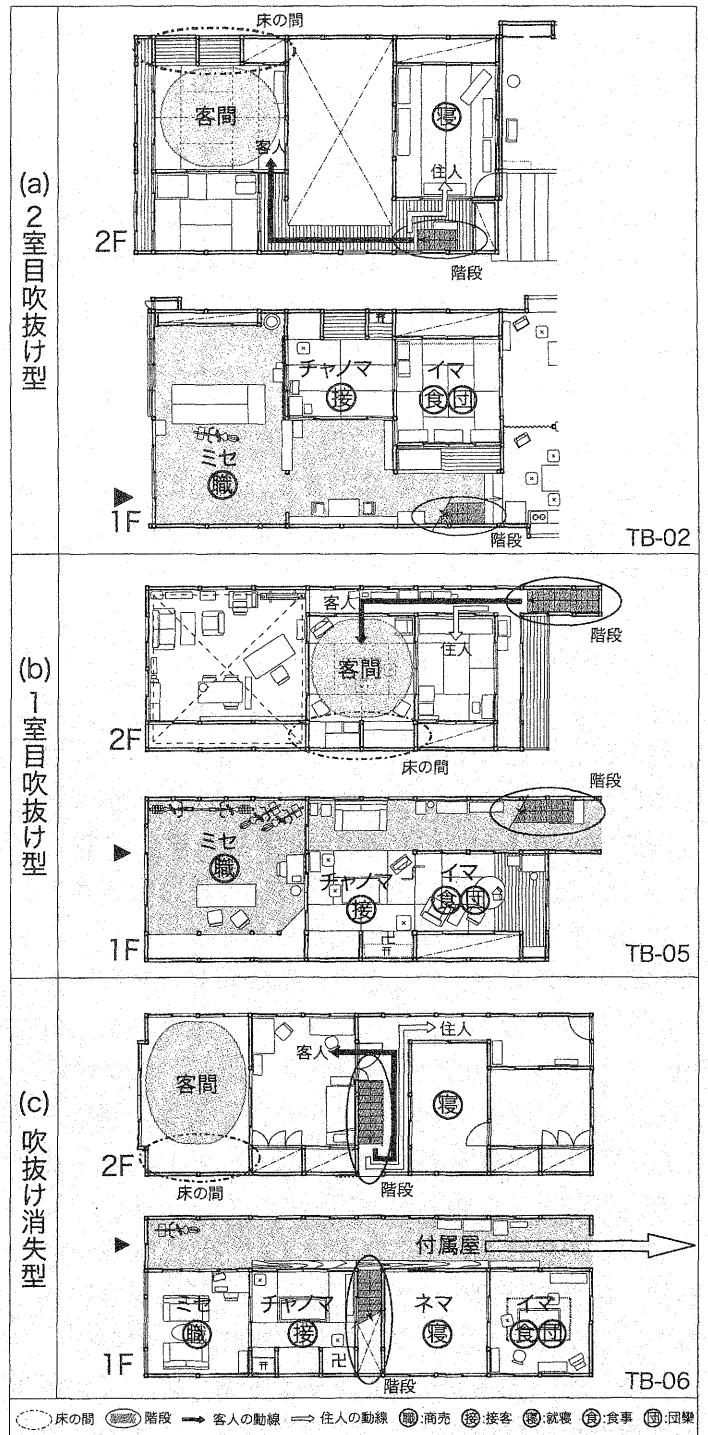


fig.8 各型の階段位置

段を使用し、住人はウラ側の階段を使用するなど使い分ける住居もある。このように階段を2つにし、上り方を変えることによって2階の格式の高さを維持していると考えられる。また、列方向に上がる場合では階段を介すことで領域を分け、オモテ側の2室が接客空間として使用されるため公的な場と私的な場が分かれている。また、マエニカイとウシロニカイの間に壁が設けられている場合もある。このこともマエニカイとウシロニカイの住まい方が大きく異なっていることを表している。

## 7. マエニカイの採光

2室目吹抜け型の場合、2階1室目が接客に使用される。このとき室のオモテ側は窓となり十分な採光が確保される。また2段構成の町家において、オモテ側の2室を連続して使用する接客でも、各室には窓が配されて採光は確保されている。1室目吹抜け型の場合には2階2室目が客間となり、吹抜け消失型の場合には2階1室目に客間、2室目に客間の補助的な空間が配される。どちらの型においても、客間へは廊下側に窓が設けられ十分な採光が確保されている。

燕の町家では、吹抜けの有無とその位置で分類した各型で2階接客空間の場所は異なる。しかしその場所にかかわらず室に対する採光は十分に確保されているため、吹抜けの位置や有無によらず接客空間としての格を満たしている (fig.10)。

## 8. まとめ

燕の町家は、吹抜けの有無と住まい方による室構成の違いから2室目吹抜け型・1室目吹抜け型・吹抜け消失型の3つに分類することができる。2室目吹抜け型では、マエニカイを客間として使用し、冠婚葬祭など非日常の場合には1階2・3室目をを用いて儀式を行っていた。1室目吹抜け型はミセの使い方が優先され2階1室目に格の高い部屋が設けられない。このとき客間は2階2室目に配され、冠婚葬祭は2室目吹抜け型と同様である。吹抜け消失型では、階段位置の変化により1階での冠婚葬祭が困難なため、儀式の場として2階1室目の客間と2室目の補助的な空間を利用する。また、2階客間の位置は異なっても採光は確保され、客間としての機能は維持されている (fig.11)。

このように、燕の町家においては、階段位置や格の維持、採光の確保の仕方などにおいて共通部分が見られた。しかしながら、ミセ機能の優先やドマの使い方といった室空間構成を変化させる要素によって、客間の配置や冠婚葬祭などの機能が異なることが明らかとなった。

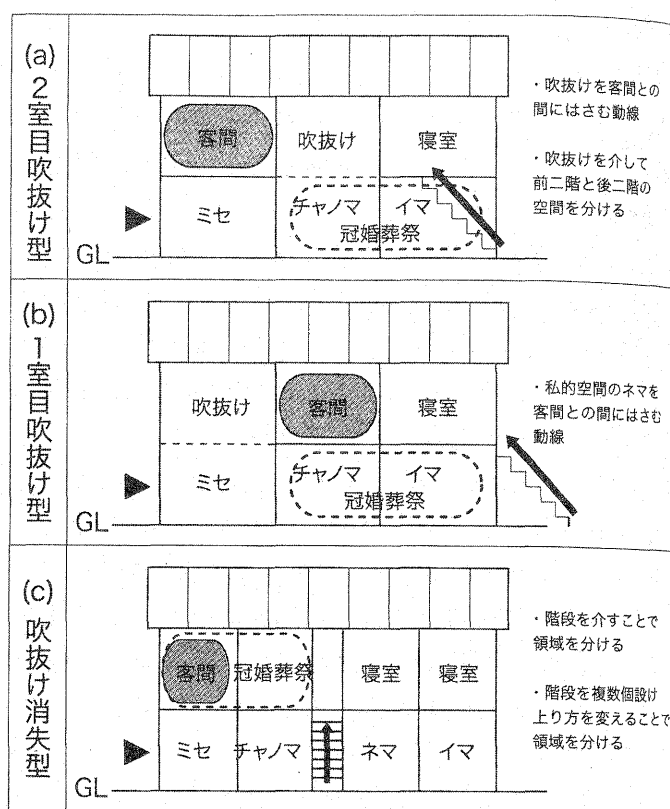


fig.9 断面モデル

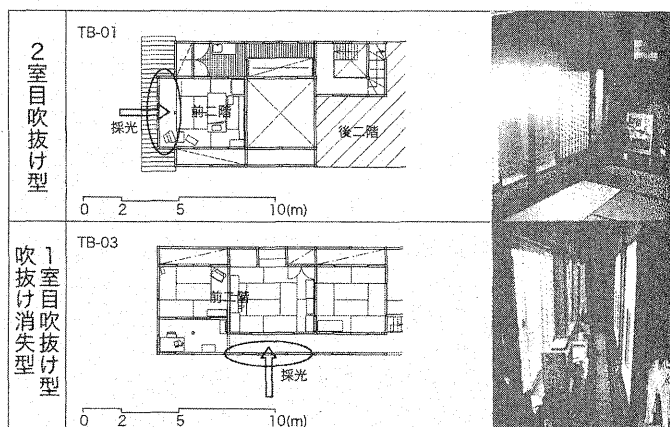


fig.10 マエニカイの採光

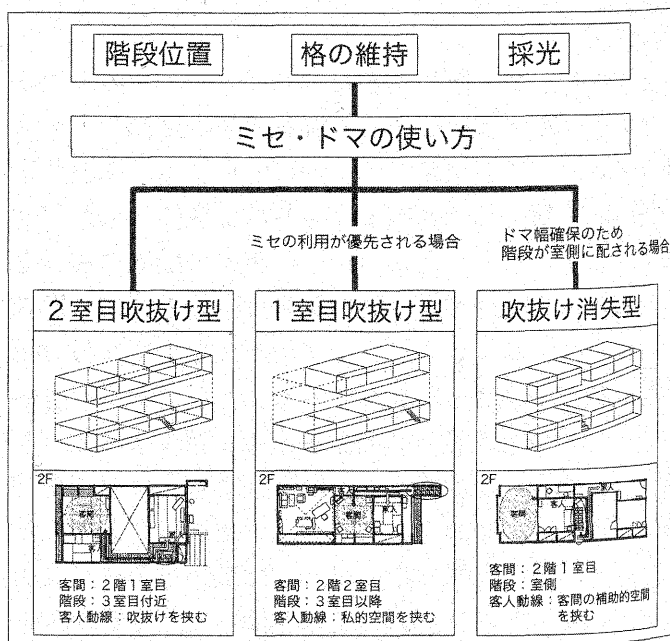


fig.11 まとめ